閑人閑語

文字獄

● 猪飼 國夫 ●

● 悪口とイジメ

イジメによる子供の自殺がたくさん報道されている．その中でも特に問題なのは，教師による生徒への悪口がイジメのきっかけになっていることである．

教師があちこちからの圧力に堪えかねて，そのストレスのはけ口を子供に求めるというのは許される行為ではない．しかし，未熟な人格のまま教師になれたり，教師に必要以上の要求を上からあるいは周囲から与えたりしている状況も一考すべきであろう．

筆者も中学時代，担任の体育の教師からイジメを受けたことがある．もちろん担任公認であるから，教室の男子生徒や一部の女子生徒からは，積極的な言葉によるイジメや無視という形で迫害を受けた．このため筆者は中学の同窓会には出席しない．

以前のイジメと最近のイジメの大きな違いは，携帯などのメールを使った，匿名の限度がない悪口であろう．

筆者も机に落書きされたり，悪口が書かれた紙切れを机に置かれたり，教室中に回されたりしたが，まだまだ加害者の特定が可能な状況だったので，限度があったように思われる．

● 落書きと作者責任

さて，世の中はどうなっているかと思い「2ちゃんねる」をのぞくと，場所によっては限りない罵倒(ばとう)発言の嵐である．筆者の記事も，意味がない根拠で罵倒されたことがあるが，便所の落書きと考えて気にしなければそれまでである．

しかし，有名な後醍醐天皇のときの「二条河原の落書(らくしょ)」にもあるように，世の中が住みにくくなるとそのはけ口を求めて悪口を言いたくなるものである．

中国では，2006年8月に重慶市彭水県の公務員が，「官場月黒風高，抓人権財権有絶招（役所は月も暗く風も強いが，権力や財産を手に入れるには絶妙の技がある）」という皮肉を書いた打油詩[注1]「沁園春・彭水」を友人にメールしたところ，公安に逮捕されて幹部への誹謗(ひぼう)罪で起訴されたそうだ．なお，重慶市では市幹部の汚職が激しく，市民の不満は脹(ふく)れ上がっていたそうである．

そのメールを見た40人ほども事情聴取をされたそうである．どこから漏れたか分からないが，いまの携帯メールはシステム側で内容を見ることも可能である．「2ちゃんねる」も法的手続きを使えば，発信者のIPアドレスを知ることができる．現代的手段のほうが単なる落書きよりも発言者を特定しやすい．

注1：打油詩は唐代にできた詩の形式で，内容や語句は通俗かつ諧謔(かいぎゃく)で，韻律や平仄にこだわらない自由詩．

　　馬児跑遠，偉哥滋陰，華仔膿胞。
看今日彭水，満眼瘴氣，官民衝突，不可開交。
城建打人，公安辱屍，竟向百姓放空炮。
更哪堪，痛移民難移，徒增苦惱。
　　官場月黒風高，抓人權財權有絶招。
嘆白雲中學，空中樓閣，生源痛失，老師外跑。
虎口賓館，竟落虎口，留得沙沱彩虹橋。
俱往矣，當痛定思痛，不要騷搞。

詩《沁園春・彭水》の全文（原文を古い字体に変換してある）

● 過去にもあった文字獄

ところで，戦前の日本に限らず時の政権は，政権の有力者の闇が暴かれるのを恐れる．権力者は自分に都合が悪い発言を，反国家や反社会あるいは会社や学校などの組織のためにならないという一方的に決めた理由で，いつも封じるものである．

水滸伝にも，酔った勢いで憂国の詩を書いたために訴えられて，やむなく梁山泊(りょうざんぱく)へ走った役人が描かれている．

中国では自由な発言が元で処罰されることを「文字獄」と称している．清朝初期に起きた明史事件などはその有名な例であり，明史草稿の執筆者や出版にかかわった人々が，処罰された．

中国では次の王朝の時に前代の歴史書（正史）を編纂(へんさん)する．もちろん司馬遷が記しているように，史官は国王のどのような発言や行動もそのまま記述していた．それが王にとって都合が悪い内容だったりすると，史官の首を刎(は)ねたりして書かせないようにしたが，それでも次の史官が事実を書き続けた，という記述が史記にはある．

● 自由な発言

自由な発言が許可されているのが民主主義社会の最大の特徴である．しかし，民主主義を装っていても，常に権力を批判する発言には圧力をかけよう，あるいは民主的な発言を装って特定の権力寄りの発言を誘導しようというたくらみは絶えない．

従ってこの情報化社会で行動するには，無意味に他人を害する発言を情報機器経由でしないようにしなければならない．匿名性の高さを利用して公人ではない個人の悪口を言ったりイジメを続けると，そのような害を除くためという理由で，それらの発言を監視したり制限したりする仕組みが作られる虞(おそれ)がある．

いったんそのような仕組みができると，権力への批判も悪口やイジメ発言と同じ範疇(はんちゅう)に押し込まれて，将来処罰の対象にされる可能性が高くなる．

便利になったネット社会の落とし穴が文字獄にならないようにするには，メールに限らずネットで発信する側の注意が必要である．

いかい・くにお　博士（工学）